

公益財団法人 放送文化基金
平成 26 年度 事業計画
(自 平成 26. 4. 1 ～ 至 27. 3. 31)

平成 26 年度の事業計画は、基金の柱である「1 助成、2 表彰、3 支援活動」事業に加え、設立 40 周年事業を実施する。

1 助成事業

助成事業では、新年度から従来の内容に加えて、「人文社会・文化」の研究対象の中に『新しい放送サービスを取り入れた番組に関する調査・研究』を書き加えて、研究対象の分野の充実・拡大を図る。また、26 年度は設立 40 周年事業の一環として、“若手研究者向け”の助成金を 25 年度よりも 300 万円上乘せし、年齢的にも研究者の裾野の拡大に取り組む。

なお、助成対象を決定した時は、その対象者とテーマを記者発表してホームページでも公表し、その後に得られた研究の成果についても PDF 等で掲載する。また研究成果のホームページへの掲載については、これまでは任意で掲載をしていたが、新年度からは、全ての研究者の報告をホームページに掲載し、研究成果を広く紹介する。

また、3 月の「助成金贈呈式」では、近年助成したプロジェクトの中から、視聴者の関心の高いテーマや時宜を得たテーマをとりあげ、研究報告会を行う。

予 算 6, 085 万円

2 表彰事業

視聴者に感銘を与えた優れた番組と、放送文化および放送技術に関する著しい貢献に対し表彰を行う。

予 算 3, 363 万円

(1) 放送文化基金賞

全国の民放、NHK、番組制作会社を対象に広く応募を募り、番組部門と個人・グループ部門の2部門を表彰する。

また、「放送文化基金賞」を決定したときは、その受賞作品、受賞者、選考理由等を記者発表し、同時にホームページで公表する。

○ 番組部門

前年度に放送されたテレビドキュメンタリー、テレビドラマ、テレビエンターテインメント、ラジオの4分野の番組を対象とする。

また、今回より番組の表彰名を一般にも判りやすいように変更し、賞金についても増額の見直しを行う。

番組の表彰（最優秀賞、優秀賞、奨励賞）計15本以内

個人への賞（演技賞、企画賞、演出賞等）計5本以内

○ 個人・グループ部門

つぎの2分野で、おもに前年度に顕著な業績をあげた個人またはグループを対象とする。

放送文化・・・放送界に新生面を拓くなど放送文化の発展・向上に貢献した個人またはグループ 3件以内

放送技術・・・技術の開発や放送現場での工夫・考案で効果をあげた個人またはグループ 3件以内

(2) 他の賞への参加

国際コンクールである「ABU賞」（主催 アジア太平洋放送連合）「日本賞」（主催 NHK）、「創作テレビ・ラジオドラマ大賞」（主催 日本放送作家協会）へ参加し、優れた番組や企画、脚本にそれぞれ賞金を贈呈する。

◎ABU賞・・・優れた番組の表彰（ABU賞全体へのスポンサーとして）

◎日本賞・・・教育に役立つテレビ番組の優れた企画の表彰

◎創作テレビ・ラジオドラマ大賞・・・優れた創作脚本の表彰

3 支援活動事業（制作者フォーラム）

放送に携わる若手制作者の人材育成を支援する施策として、全国を4地区に分け、各地区の制作者が組織の枠を越えて交流を図る制作者フォーラムを秋田、長野、松山、福岡の各市で開催する予定。

また、4地区での開催後、全国の制作者を対象に、近年、話題となった番組の視聴やその制作者を交えての意見交換、経験豊かな制作者による講演などを盛り込んだ「全国制作者フォーラム」を東京で開催する予定。

予 算 998万円

4 設立40周年記念事業の実施

予 算 1,578万円

（1）若手研究者への助成奨励

放送研究の発展と研究者の裾野拡大に向け、26年度から3年計画で若手研究者への助成奨励策として、助成金を増額する。

（予算は40周年事業積立金より500万円措置）

（2）放送文化基金報「40周年記念特集号」の刊行

平成26年度に刊行する第80・81号（4・9月刊行）については40周年記念特集号とし、助成事業や表彰事業などについての総括や展望などを、通常の年間活動の紹介に加えて刊行する。

（予算 50万円）

（3）「事業」システムのWeb化による再構築

平成25年9月の助成事業、平成26年3月の放送文化基金賞に続き、名簿管理についてもWeb化を実施する。

（予算は40周年事業積立金より400万円措置）

（4）ホームページのリニューアル

基金の事業をより広く紹介し、理解を深めてもらうことを目的に全面的なリニューアルを行う。

特に、事務局での情報の随時更新が可能なCMS（コンテンツ・マネージメント・システム）を導入し、常に最新情報を提供する。

（予算 513万円）

(5) 40周年記念の会

設立40周年を記念して、役員、評議員、審査委員などが一同に会して記念の会を開催する。

開催日は、12月4日の評議員会開催後に実施する。

(予算 115 万円)

5 広 報

事業の活動状況を広く紹介するため、広報誌（放放送文化基金報「HBF」）第80号(春号)を4月、第81号(秋号)を9月に刊行し配布する。また、ホームページを使い、助成プロジェクトの成果や放送文化基金賞の表彰状況などを掲載する。

予 算 427万円

6 事業安定化基金への積立

基金収入の全てを占める資産運用は、長引く超低金利の影響を受け、資産全体の運用利回りは年々低減傾向を示しているが、現在は、これを円安による増収で補う形とし、当面は事業展開に支障はないものと考えられる。

しかし、この減収構造は長期に渡り解消できないものと見込まれるため将来の予算不足を補うため、計画的に積立を行うこととする。

予算 1000万円

以上